

ヒロシマアピール 2025

広島と長崎への原爆投下そして第二次世界大戦終結から 80 年を迎えるにあたり、私たち世界の若き市民は、今なお続く世界の暴力に警鐘を鳴らし、平和を強く求めるため、本日広島に集います。迫害、紛争、暴力、人権侵害、そして不安定な情勢により、全世界で 1 億 2 千万を超える人々が故郷を追われています。今こそ、人類として団結し、未来のために生命を脅かす課題に取り組むべき時です。

青少年国際平和未来会議（IYCPF）において、私たちは、気候変動が地域社会に及ぼす影響、そして最終的に戦争へとつながるイデオロギー的分極化の高まりに対処するための優先事項について、国際的な合意を得ることに成功しました。

わずか数カ国が 1 万 2 千発を超える核兵器を保有する状況において、戦争は全人類にとって存亡の危機となっています。また、私たちは毎年 2.2 兆米ドルもの額を世界中で防衛費に浪費しています。この資金は、人々の生活の向上と知識の発展のために投資できたはずのものでした。また、私たちはいわゆる「核の傘」の価値についても疑問を呈します。平和を実現するためには、世界的な優先順位の変更、平和文化の構築、そして国際規範の再考が必要です。

武力紛争は、気候変動、生物多様性とバイオマスの喪失、水不足といった様々な環境問題によって引き起こされ、また、それらを引き起こす可能性があります。武力紛争と環境の間には、私たち人類、そして地球を傷つける負の連鎖が存在します。これらの問題の解決策は、地域ごとの脅威に焦点を当て、経済・社会・環境の各問題における持続可能な開発を追求することにあります。また、これらを達成するためにはテクノロジーが重要な味方となり得ます。

しかし、テクノロジーは諸刃の剣にもなり得ます。プロパガンダ、エコーチェンバー、そしてメディアリテラシーの欠如によって、多くの誤情報が蔓延し、これが過激主義、差別、憎悪を生むおそれがあります。こうした悪影響を回避するため、私たちは人々の教育を重視すべきです。過激主義と思想的対立の分極化が進行する時代において、私たちは人々が互いにコミュニケーションを取り、思いやりを示すことに重点を置くべきです。

変化を起こすためには、世界市民として団結し、自らが有する力を認識する必要があります。環境問題と武力紛争との悪循環など、今日の世界を脅かす諸問題について議論を重ねた結果、これらの問題には一つの単純な解決策はないという結論に至りました。**教育こそが変革の鍵**です。ソーシャルメディアなどの技術革新は、世界中の人々に世界平和の実現のために

何ができるかを伝えるために活用できます。しかし、教育は一部の社会階層の高い人々だけに限定されるべきではありません。誰もが、基本的人権として教育を受けることができなければなりません。教育は教室に限定されるものではなく、仲間、保護者、そして IYCPF のようなプログラムを通じて行われるものであることを認識することも重要です。今日こそ、平和を最優先事項とする世界を求めて、団結する絶好の機会です。このようなプログラムが、100 年も続きながらこの普遍的な共通の目標を達成できないとしたら、どれほどの悲劇でしょうか。

私たちは世界の青少年として、バンコク、大邱、エヴォラ、グラノラズ、ハノーバー、ホノルル、イーペル、マンチェスター、モントリオール、モンテネグロ、ネルトリンゲン、ポズナン、サントス、タスマン、テヘラン、ウェリントン、そして広島から集まりました。

私たちは共に、現代社会が直面する諸問題について議論し、それらの解決策を模索しました。解決策を明らかにするために、世界の政府と指導者に対し、協力し、対話を行い、地球を故郷と呼ぶ全ての人々のために恒久的な平和を築くよう呼びかけます。

しかし、これは指導者のみから生まれるものではありません。私たち自身から生まれるものであり、自らを見つめ、「私自身はどのように影響を与え、恒久的な平和に貢献できるか」と自らに問いかける必要があります。

それは、互いに親切と敬意を持って接することほどに単純なことかもしれません。
それは、見知らぬ隣人に「こんにちは」と声をかけることほどに単純なことかもしれません。
それは、助けを必要とする人に手を差し伸べることほどに単純なことかもしれません。

私たちは、こうした行為を常に心と身体と精神の中に持ち続ける必要があります。

2025 年 8 月 5 日 IYCPF ヒロシマ参加者一同